

女性部下部組織 ボウリング大会

6月22日に札内農協女性部下部組織交流会が開催され、18名の部員と高橋専務、小野田理事が参加しました。

この事業は、相互の交流を図り、農作業の合間のひと時を楽しもうと、毎年1回女性部と下部組織が実施しています。

ボウリングは各団体混合の組み合わせでプレーが行われ、熱戦が繰り広げられました。

ボウリングの後はフードスタジアムでの懇親会となり、女性部活動や農協事業についての話が出る中、和やかに親睦を深めました。



青年部「環境整備事業」加工センター周辺草刈り

6月26日に青年部の環境整備事業の一環として依田地区の農産物加工センター及びコンバイン格納庫周辺で草刈りが行われました。

青年部の環境整備事業は今年で4年目となり、総勢13名の部員が参加しました。作業後は焼肉をしながら当農協役員の方々との意見交換会を行い、有意義な時間を過ごしました。

当日は小雨の降る中での作業でしたが、青年部の皆さん、ありがとうございました。



女性部友の会 夏期研修

6月29日に女性部友の会の夏期研修が開催され、12名の部員が上士幌町にあるドリームヒルと音更町にある北海道新聞社の工場見学へ行ってきました。

ドリームヒルは経産牛1,765頭、育成牛54頭を飼養する牧場で、酪農に対して一人でも多く関心を持って貰い、酪農に親しんで貰えるようオープンファームを実施しています。部員一同は、牧場で経営している「アイス工房ドリーム」で直営ならではのコクと旨さが楽しめるジェラードを堪能してきました。

その後の北海道新聞社では、北海道新聞ができるまでを見学してきました。超高速輪転機で新聞が印刷され、発送されるまでの様子を見たり、ビデオやパネルで業務の説明を聞いたり、皆さん真剣に学んできました。毎日手に取る新聞ですが、その制作過程を知る機会は滅多に無いため良い経験が出来たと皆さん話していました。



新規就農者激励会

今年度から農業後継者として就農する方々を励ます「新規就農者激励会」が、6月30日に当農協にて開催されました。

この春に学校を卒業された方等、3名出席し、高橋組合長、幕別町経済部長、青年部長、女性部長から祝辞をいただき、高橋組合長から激励状が贈られました。新規就農者の3名は「広い視野で学び、1日も早く一人前の経営を」と決意を新たにしていました。

平成27年度 新規就農者激励会



青年部 日農機製工(株)工場見学

7月1日、青年部畑作専門委員会13名は管内研修で、足寄町にある日農機製工株式会社へ工場見学に行ってきました。日農機製工はビートハーベスター、高精度カルチベーターのトップシェアメーカーで、十勝を拠点として農業の発展に寄与してきた会社です。

今回の研修では、ビートハーベスター等の生産工程や、生産している製品の説明といった内容を部員の皆さんは実際に見て、聞いて、触れて、熱心に学んできました。昼食は社内施設でバーベキューを行い、日農機製工の方々と楽しい時間を過ごしました。



青年部 夏期スポーツ大会

青年部の夏期スポーツ大会が7月4日に依田パークゴルフ場の「俳句村コース」にて、青年部と農協役職員の交流の場として開催されました。

高橋組合長の挨拶の後、青年部長の始球式で幕を開けたパークゴルフ大会は、青年部と役職員の混合チームで行われ、スコアの混戦する白熱したプレーが繰り広げられました。

当日は午後から天候に恵まれ、コースのあちらこちらで笑い声が絶えない活気溢れる大会となりました。

終了後の焼肉ガーデン交流会では、新職員・新青年部員の紹介やビンゴ大会で盛り上がりを見せ、皆さん束の間のひと時を楽しんでいました。



十勝農協連 海外農業研修視察

今回、カナダ「ゲルフ・トロント・レスブリッジ・バンクーバー」を7月7日より11日間の日程で個人経営の農家を中心に視察研修させていただきました。カナダはロシアに次ぐ世界第2位の国土面積を持つ国でもあり、総面積は998万km²、日本の約2.7倍の面積があり、その内農地面積は



6,260万haと日本の約1.5倍、土地も肥沃な農業大国でありました。気候は北海道とよく似ていますが、湿度が低く、雨も少なく今年は特に雨が少なかったため各地でスプリンクラーが作動していました。また、カナダは物価が非常に高く消費税が13%ですが教育・医療等、社会福祉が充実しているため国民の不満は少ないそうです。カナダは治安も良く住みやすい国と言われています。

オンタリオ州ゲルフ近郊ではオンタリオ農業連盟組織より農業情勢と土地改良・作物改良・企画について説明を受けました。当組織は会員数37,000戸余でカナダ国内州農業連合としては最大組織で国との交渉等を行っています。また、シャープファーム（ゲルフ近郊）は2,400haの農地を所有しており、息子3名と従業員60名で事業を行なってい

ます。大規模肥育牛農場においては常時400～750頭の牛を肥育、また大規模農業も行いコーン・麦・大豆を生産しています。麦・大豆についてはアジア方面にも輸出しており、種子販売、肥料、農薬販売、輸送事業も行っています。

次に受精卵移植で有名なイーストゲン社「酪農サービス会社」(ゲルフ近郊)では、40年前ゲルフ大学にいた日本のカナガワ教授により受精卵移植の研究が進められ、日本へ帰国後、北海道大学の畜産学部就任されたと説明を受けました。また、家族1人、使用人2人、パート3人の「家族経営型酪農家」を視察しました。乳牛350頭あまりを飼育し、内140頭を24時間搾乳しているとのことでした。耕作面積は約200haで牧草・コーン等を栽培、濃厚飼料以外すべて自家製飼料でまかなっていました。また、家畜の排泄物を利用したバイオマス発電を行っていて約8年で元が取れると説明を受けました。

ホランド・マーシュ「野菜生産者協会」(ゲルフ近郊)はオンタリオ州の湿地農業地帯で、周りが川に囲まれており、水路の位置が畑より高いため、水は暗渠排水で集めてポンプを使い水路に捨てます。125戸の野菜農家が2,800haで約60種あまりの野菜を生産しており、農場戸々が独自の販売網を持っているそうです。

レスブリッジでは小麦生産農場「カナダ穀物生産者協会」を訪問しました。冬撒き小麦、春小麦、大麦、キャノーラを栽培しており、小麦は主にアメリカ・カナダ人の主食用とのことです。TPPについての話もあり、ヨーロッパや日本との話し合いは良いが、アメリカとの話し合いが上手くいかないと言っていました。小麦は国より1エーカー当たり163,000円の補助金が貰えるそうです。その後、135戸の農家が加盟しており、約20,000haでポテトの栽培をしている「アルバーターポテト生産組合」を訪問しました。販売は主に、ケンタッキー・マクドナルド・トレー販売で、訪問先の農場では500hpのポテトハーベスター「6条堀」で1日11ha、12日間で終わらせるとの説明を受けました。また、この生産組合はバイオ発電システムを所有し、選別クズ等を利用して発電も行っています。

バンクーバーではあらゆる農産物が集められ販売されているファーマーズマーケットを視察しました。

1日だけナイアガラ滝視察を行い隣国のアメリカも遠くから見てきました。ナイアガラの水を利用した発電は日本の原子力発電3個分くらいの発電能力があると説明を受けました。カナダは世界第2位の国土を持つ国とあってとにかく広く、黄色く色づいた菜の花と、まっすぐな道路が地平線まで続き、地球を感じ感動しました。

組合長杯パークゴルフ大会

7月11日、ちろっとの森コースにて組合長杯パークゴルフ大会が開催され、組合員49名が実力を惜しみなく発揮しようと全力でプレーに臨みました。

組合長の挨拶で始まったパークゴルフ大会は、最後まで熱戦が繰り広げられました。男性の部入賞者はスコア2打の中に5名入る大混戦、優勝・準優勝の2名は同点という結果でした。女性の部も拮抗したスコア争いでした。

当日は雨が心配されていましたが、プレー中には降ることもなく、最後まで笑顔の絶えないパークゴルフ大会を行うことができました。



女性部 管外視察研修

7月15～16日に1泊2日の日程で女性部の管外視察研修が開催されました。今年の管外視察研修は札幌・恵庭方面で、札幌ウィンタースポーツミュージアム、北海道四季劇場、ホクレンショップ、えこりん村といった盛り沢山の日程でした。

1日目、大倉山ジャンプ競技場内にある札幌ウィンタースポーツミュージアムへ行き、昭和47年に開催された冬季オリンピック札幌大会の貴重な資料や実際に使用した数々の品の展示を見てきました。また、スキージャンプやボブスレーといったウィンタースポーツの疑似体験をして楽しみました。その後、北海道四季劇場に移動し、『CATS』観劇を堪能してきました。劇団四季の公演を初めて見る人も多く、その迫力と世界観に圧倒されていました。

2日目、ホクレンショップで店内視察を行った後、えこりん村で「みどりの牧場ショー」を満喫しました。牧羊犬とハンドラーの息のあったドッグショーに皆さん大興奮でした。また、みどりの牧場ではアルパカや羊と触れ合うことができ、なかなか触る機会が無い動物達のやわらかい毛の感触や体温を直に感じてきました。夕食は園内にあるレストランにて、北海道産にこだわった新鮮野菜をふんだんに使ったサラダビュッフェを満喫してきました。

今年の管外視察は盛り沢山の内容で、「普段体験できない多くの事を体験できて充実した2日間だった」と、部員の皆さんも大満足の研修となりました。



収穫期到来 ～いよいよ秋本番～

用途別	面積 ha	粗麦推定数量 俵	製品推定数量 俵	歩留 %	規格外 俵
一般きたほなみ (反収)	649.49	75,198 (11.58)	67,678 (10.42)	90.00	7,520 (1.16)
前年		(8.52)	(7.62)	(91.20)	
種子きたほなみ (反収)	58.56	7,040 (12.02)	6,751 (11.53)	95.89	289 (0.49)
前年		(9.04)	(8.59)	95.04	
合計 (反収)	708.05	82,238 (11.61)	74,429 (10.51)	90.50	7,809 (1.10)
前年		(8.56)	(7.83)	(91.52)	



7月下旬に収穫を終えた小麦は、約649haの一般きたほなみの粗麦推定数量が約7万5千俵、10a当たり11.58俵（製品推定数量は約6万7千俵、10a当たり10.42俵、製品推定歩留90%）となっています。前年と比べ粗麦数量は反収3.06俵、製品数量は反収2.80俵上回る見込みとなっています。種子きたほなみについては約58haで粗麦推定数量が約7千俵、10a当たり12.02俵（製品推定数量は約6千俵、10a当たり11.53俵、製品推定歩留95%）となっています。前年と比べ粗麦数量は反収2.98俵、製品数量は反収2.94俵上回る見込みとなりました。

料理サークル 『8月例会』

女性部の料理サークルによる『8月例会』が8月7日、百年記念ホール調理室にて行われました。今回は「パエリア・チャーシュー」作りでした。参加者10名は各々料理の腕をふるいました。

昼食の完成に合わせて始まった調理は時間通りに完成することができ、どれも美味しい一品となりました。パエリアは味も見た目も皆さん満足のいく出来に仕上がりに、会話も弾む楽しい昼食会となりました。



女性部 生涯学習「ペーパークイリング」



8月11日、女性部による生涯学習が当農協2階会議室で開催されました。女性部長が講師を務め、『ペーパーキリング』を行いました。

ペーパーキリングとは細長い紙をクルクル丸めながらパーツを作り、それを組み合わせて色々な形に仕上げていくペーパークラフトです。細かい作業ですが工程は簡単で、気軽に楽しめるアートだけあって、皆さん夢中で作成していました。

作品はケースに入れて、素敵な飾りに仕上げる事が出来ました。